

海辺での自然体験活動を通しての学び

人間科学部 人間科学科 渡部かなえゼミナル

2024年9月18日、人間科学専門ゼミナル I（渡部かなえ2年生ゼミ）は、海辺の自然体験活動を葉山海岸で行いました。リフレクション（振り返り学習）の記録の一部です。

まず着いてからみんなで移動し、緑についてやなぜ日陰が涼しいかについて聞いた。植物が光合成をすることで緑のカーテン状態になり陰となってくれていることがわかった。全体が見渡せる場所に移動してからは、集合場所でも話してくれた天皇の別荘をみることもできた。実際に周りを歩いてみると壁に近づかないように歩くよう指示している紙が貼ってあったり、ちゃんと警備の人がいたりと厳重な管理がされていた。葉山からは江ノ島や富士山、伊豆など多くの場所が見渡せることがわかった。海の方に移動してからは遠くからみていた時に比べてゴミの量がこんなにも多かったのかと気付かされた。活動の後半に自分たちでゴミを拾った時に陶器等は小さく割れているのが多かったがプラスチックやペットボトルはわりとそのままの形でまだ残ってしまっているもの

が多いように感じた。中国から流れ着いているものもあり国内に留まった問題でもないことはすごく大きな課題だと考えられる。今回の活動で1番印象に残っていることは実際に自分たちで生き物採取をしたことだ。石の下や岩の中にいること、

様々な種類の生き物がいることを知った。捕まえてからはうんぱパがひとつひとつ丁寧に説明をしてくれてメスとオスの違いや種類の違いを實際に目でみて確認することができた。砂浜にも青いコインのようなクラゲや二枚貝、ガラス、化石など特徴やできた流れ、触感など自身で感じることもが沢山できた。足場がかなり不安定だったのも印象的である。ぼこぼこしているなと感じたものがフジツボで接着力がとても強くて動かないことを知った時は驚いた。海に入ることでもできて涼みながら奥にいくほど冷たくなるという水温の違いも感じられた。自分の五感を使っていきものや自然に多く触れることができる会になり、うんぱパの説明からは知識的なものから考えさせられるような現在の課題となっている話が多くで、環境について考えるきっかけとなった。想像よりも多かったゴミの量も現状を知ることができたので足

を運んで目でみたことはとても重要だったと考えられる。

今までは海へ行っても、浜辺に何が落ちていのか、岩場にはどんな生き物がいるのかなどを観察することはなかった。しかし今回の活動を通して、改めて自然や生き物の魅力を知ることができた。一方で、人間による海洋汚染が深刻であるとも感じた。まず、砂浜で海野さんに見せていただいた石のようなものが、長い時間をかけて作られた化石だと知ったときは驚いた。今までただの石だと思っていたものも化石だった可能性があり、身近なところで歴史を感じることができた。次に岩場で海辺の生き物を観察したが、岩の下や潮だまりにはこんなにもたくさん種類の生き物がいるのだと知った。また、ナマコは身を守るために内臓を出すことを初めて知ったので死んでしまうのかと心配だったが、内臓は再生すると聞いて生命力の強さを感じた。最後に、浜辺に落ちていたものを4つに分ける活動ではとてもごみが目立っていた。ネットやペットボトル、食べ物の容器などがたくさん落ちていて海洋汚染の深刻さを感じ



磯の生き物観察

た。海にはたくさんの生き物がいて、私たちはその生き物たちから恩恵を受けたり、生き物たちの住処で泳いだりマリンスポーツを楽しんだりしている。それにも関わらずごみを捨てて海洋を汚染することはとても身勝手な行動だと感じた。海の生態系を守るためにも最低限のマナーは守るべきだと考える。また、中には国外から流れ着いたごみもあり、世界中の人々が意識をしないと今の状況は改善しないと考えた。今回の活動を通してたくさん発見があり、とても貴重な体験をすることができた。また、学んだことをこれからの生活に活かしていきたいと考えた。



海岸で特別講師による講義